

Anniversary of Hijikata Tatsumi's Death
 Talking together about Hijikata Tatsumi
 21st January 2025, 6pm, Admission Free
 Keio University Mita Campus
 East Research Building of G-Lab

East Research Building of G-Lab
 Keio University

没後三十九年

土方巽 を語ること XIV

主催 | 慶應義塾大学アート・センター
 企画 | 慶應義塾大学アート・センター土方巽アーカイブ、ポートフォリオBUTOH
 協力 | 土方巽アスペクト館、NPO法人舞踏創造資源、
 令和6年度 メディア芸術アーカイブ推進支援事業
 「1970年代以降のパフォーマンスおよび展覧会のビデオ記録のデジタル化・レコード化II」

二〇二五年一月三十一日(火)
 六時開会
 「土方巽の舞台美術」
 ゲストスピーカー
 特別展示「清見の舞台美術」
 参加無料
 慶應義塾大学
 東館六階
 オナライヴ配信あり
 吉江庄蔵
 入退場自由
 自由衣裳
 パス

没後三十九年

主
 土方巽アーカイブ、イマダ大経義塾塾長 | 企画
 パスで巽士 | 企画
 1970年代以降のパフォーマンスのビデオ記録のデジタル化
 清水晃の会義演ははスビターホアの録以升年 07/17

「土方巽の舞台美術」
 吉江庄蔵
 入退場自由
 自由衣裳
 パス

2024 年は辛い年でもありました。土方巽の友人、知人が何人も他界されました。「土方巽を語ること」のゲストとして呼びびできた方もいれば、呼びびできなかった方もいます。

とまれ、みなさんが土方巽の元へ旅立ったと思えば、少しは気が楽になります。

2025 年 1 月 21 日。恒例の「土方巽を語ること」を行います。今回は、彫刻家の吉江庄蔵さんをゲストスピーカーにお呼びびして、土方巽の舞台美術について話し合います。

吉江さんはアスベスト館で土方巽に協力して「白桃房連続公演」(1974 年～1976 年)の舞台美術を手掛けられました。土方巽の作業については、踊りを中心に語られるものですが、この時期の土方巽は舞台美術も自ら考案し、優れた創造性を発揮したのです。また、土方巽が開発した特異な照明が加わることで、舞台美術は魂を込められたとも言えます。なんにせよ、舞踏手の身体、音楽、美術、照明、衣裳が一体となって、陶酔感が生まれる舞台が成立したのです。

先立つ 1960 年代には、中西夏之や横尾忠則、清水晃らが土方巽

に美術やデザインで協力しています。それは、舞踏家と美術家との「終わりなき対話」(中西)によって、通常の演出家と美術家の関わりを超えての関係をもって創造に向かったのです。

それでは、1970 年代の吉江庄蔵の場合はどうだったのでしょうか。そもそも、土方巽が舞台美術で生み出そうとした世界とは何だったのか。あの狭小のアスベスト館の舞台空間で何が行われていたのか。残されている舞台美術作品(戸板)を並べ、また記録映像を上映しつつ、土方巽と吉江庄蔵の「共同の作業」の成果を確認します。

また、土方巽が「稲妻捕りの画家」と称した清水晃の舞台衣裳を会場内で特別展覧します。

2024 年は舞踏公演も数多く行われ、舞踏をめぐる海外交流も一気に増えました。2025 年はさらに交流が増すことでしょう。「土方巽を語ること」に参集されるみなさまとともに、あらためて舞踏の過去を訪ねつつ、舞踏の現在と未来を考える日にしたいと考えます。(森下 記)

ゲストスピーカー | 吉江庄蔵

Shozo YOSHIE



彫刻家。1974 年東京藝術大学大学院彫刻科修了。1979 年東京藝術大学構成デザイン科修了。1975 年から 76 年にかけて、アスベスト館での白桃房連続公演の舞台美術に参画する。1985 年現代美術の祭典(埼玉県立近代美術館)に初めて被膜彫刻を出品(優秀賞受賞)。1991 年和栗由紀夫舞踏公演〈青い柱〉(池袋西武スタジオ 200)にて舞台上で被膜彫刻を制作。以降も和栗由紀夫や小林嵯峨ら舞踏家とのコラボレーションで舞台美術を担当。「被膜彫刻」展を各所(1995 年ストライプ美術館、2001 年スパンアートギャラリー、2003 年松本美術館など)で開催。2003 年「肉体のシュルレアリスム 舞踏家土方巽抄」(川崎市岡本太郎美術館)に被膜彫刻を出品。近年は個展「境界を巡る驥」(2019 年～2024 年巷房)で被膜彫刻を発表。

土方巽作品で舞台美術を担当した公演

・アスベスト館

〈バツ先生の人〉(1975 年 3 月)、〈彼女らを起こすなかれ〉(1975 年 5 月)、〈小日傘〉(1975 年 7 月)、〈嘘つく盲目の少女〉(1975 年 9 月)、〈暗黒版かぐやひめ〉(1975 年 12 月)、〈梨頭〉(1976 年 2 月)、〈それはこのような夜だった〉(1976 年 4 月・5 月)、〈ひとがた〉(1976 年 6 月)、〈正面の衣裳—少年と少女のための闇の手本〉(1976 年 10 月・11 月)、〈鯨線上の奥方〉(1976 年 12 月)、〈親しみへの奥の手〉(1985 年 5 月)、〈油面のダリヤ〉(1985 年 9 月)

・アスベスト館以外での公演

〈小日傘・バツ〉(京都大学西部講堂 1975 年 10 月)、〈最初の花〉(三百人劇場 1978 年 10 月)、〈楼閣に翼〉(三百人劇場 1978 年 11 月)、〈フック・オフ 88 papa —景色へ I 踵の髪型〉(plan B 1983 年 4 月)、〈日本の乳房〉(日本芸術祭欧州ツアー 1983 年 6 月・7 月)、〈東北歌舞伎計画 I～IV〉(池袋西武

Time Table

「没後 39 年 土方巽を語ること XIV」(東館 6F)

17:00	開場
18:00	開会 土方巽の舞台美術 ファシリテーター 森下隆
19:00	ゲスト登壇
20:00	閉会予定

イベントの詳細については HP をご確認ください。



Zoom でご参加の方はこちら

<https://keio-univ.zoom.us/j/82228169423>
ID: 822 2816 9423



特別上映会 「70 年代後半における土方巽の振付」

これまであまり注目されてこなかった 1977 年、1978 年の下記 2 作品を VIC コレクション*から上映します。

*VIC (Video Information Center | 1972～現在) は、70 年代から 80 年代にかけビデオを用いて、多種多様なイベントの記録および実験的なテレビ放送 (アパートでの CATV 放送の試み「Paravision Ten」1978 年) 等を行った運動体です。

2025 年 1 月 21 日 (火) 13:00 開始

会場 | 慶應義塾大学三田キャンパス
東別館 9F カンファレンスルーム

13:00-15:00

1977 年 《小林嵯峨舞踏公演》〈にが光〉
出演 | 小林嵯峨、和栗由紀夫ほか

15:30-17:00

1978 年 《仁村桃子舞踏公演》
アスベスト館松代分室設置記念 〈最初の花〉
出演 | 仁村桃子、山本萌

*「土方巽を語ること」が開催される東館とは別の建物です。ご注意ください。

*上映会のオンライン配信はありません。

同日に東別館 3 階、慶應義塾ミュージアム・commonsにて KeMCo 新春展 2025 「へびの憩う空さ地」が開催されています。「土方巽播義大踏鑑 (付) コレクション展示即売」展記録写真や映像 (本年度新規デジタル化) など、あまり公開されてこなかった資料が展示されています。ぜひご覧ください。